

B-67 被服の外観と機能の問題 —タイトスカートについて—

昭和女大文家政 鈴木キミ子

1. 10年ほど前、スカートの裾線は、直立正常姿勢時で膝関節位置より、12~13cm 下にあったが、年を追って短くなり今年と同姿勢時において膝関節が露出している者もみられるようになった。このスカートについて機能と整容の上から考えてみたいと思う。

2. 職業をもつ婦人・学生計 200 名について、スカート縫製に関連する身体10部位の計測を行ない、同被測者着用のスカートにつき6項目を調査した。被験者をやせ型・普通型・肥満型の3体型とし、計測・調査に基づき同一条件でタイトスカートを製作、着用実験を行ない、たけ^{けりひだ}・蹴襷のあきどまりの位置について検討し、普通歩行、階段・都電・バスの各上がり段歩行ならびに腰掛座位時における裾線前後の移動状態を計測した。なお、たけ・

蹴襷について昭和32年以降の調査と比較した。

3. 9年間に、たけは胴高を100として約10%短くなっているが、ひだ止まり点は膝関節からほぼ同位置にあり、ひだの長さは短くなっているのに対し深さは平均1cmも浅くなっていない。被服のずれ上がりは前よりも後に多くあらわれる。たけが短くなるにしたがい裾線の移動は減じるが、現在のたけでは下肢運動時に膝前後部・大腿部まで裾線は移動する。